

豊津のあゆみ2

(概要版)



平成 30 年度北浦一周サイクリング



平成 26 年度とよつかるた大会



令和 4 年度とよつぶれあい運動会



令和 5 年度とよつまつり

豊津地区まちづくり委員会

設立20周年記念

豊津のあゆみ2について

住民自らが事業を企画運営し、地域づくりを進めていく「地域管理・運営型」公民館の活動主体として「豊津地区まちづくり委員会」が発足して20年が経過しました。

発足10周年に際しては、平成26年度に「豊津のあゆみ」を発刊し、地域住民の皆様に配布しました。まだ手元に持っている方も大勢いらっしゃることと存じます。

それから10年、歴史は引き続き残すべきであるとの声を受け、今回「豊津のあゆみ2」を発刊する運びとなりました。

今回は時代に即し、デジタルデータでの閲覧を基本にしています。電子ブック形式で提供し、スマートフォンやパソコンから見ることを想定しています。

ただ全員がデジタルメディアを利用できるわけではありませんので、紙媒体でこの概要版を作成しました。

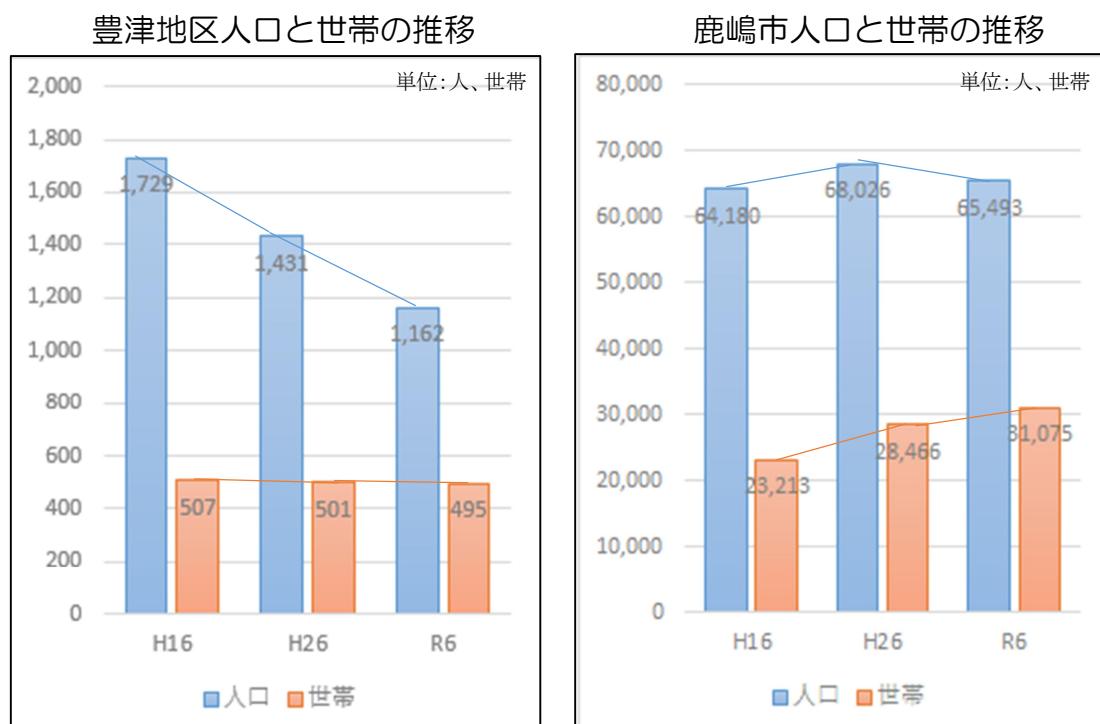
これを基に、今後の豊津を考えるご参考になれば幸いです。

1 豊津地区の10年

(1) 人口と世帯の推移（住民基本台帳人口）

鹿嶋市全体の世帯数は増えているものの、人口は減少しています。

豊津地区は市全体と比べ人口の減少率が高く、人口減少が顕著となっています。一方世帯数も減少していますが、人口減少と比べると緩やかであり、一世帯当たりの家族数が減少したものと推測されます。



各年4月1日現在

(2) 地区別年齢層別人口の推移（国勢調査人口）

年齢層別人口は国勢調査の数字を用いていますので、比較する年が国勢調査の行われた令和2年、平成22年、12年となり、直近の数字ではありませんが10年間隔の増減傾向を見るのには特に問題はないと思われます。

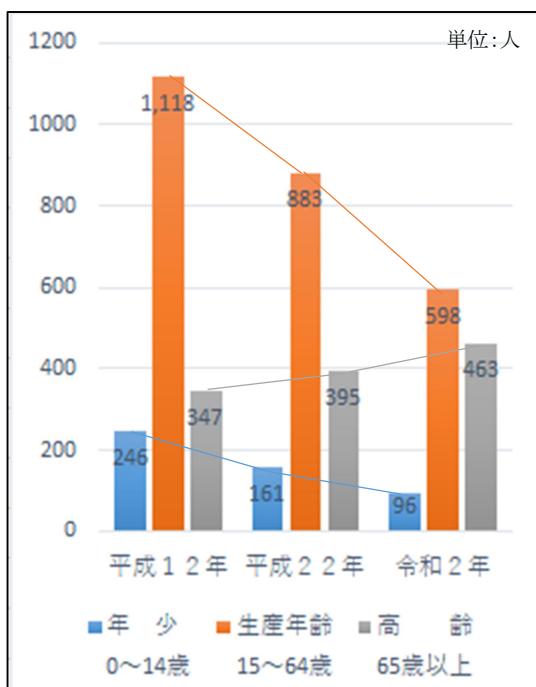
国勢調査では5歳毎に人口を算出していますが、これを0から14歳の年少層、15から64歳の生産年齢層、65歳以上の高齢者層に分け、10年間の推移について豊津地区を鹿嶋市全体と比較しました。

これを見ると、鹿嶋市は年少層と生産年齢層が減少し、高齢者層が増加しています。

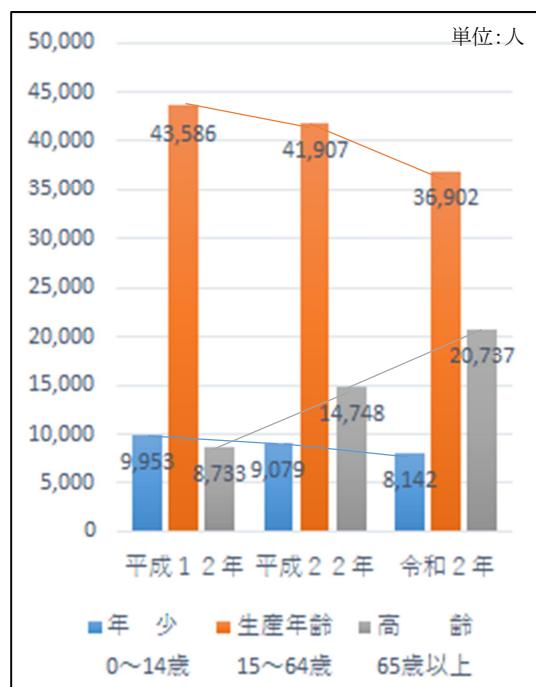
豊津地区は高齢者層の増加率は鹿嶋市全体程ではありませんが、年少層と生産年齢層の減少が著しく進んでいます。

従いまして豊津地区の年齢層別の割合は、鹿嶋市全体と比べ年少層と生産年齢層が薄く、高齢者層が厚い構成となっています。

豊津地区年齢層別人口の推移



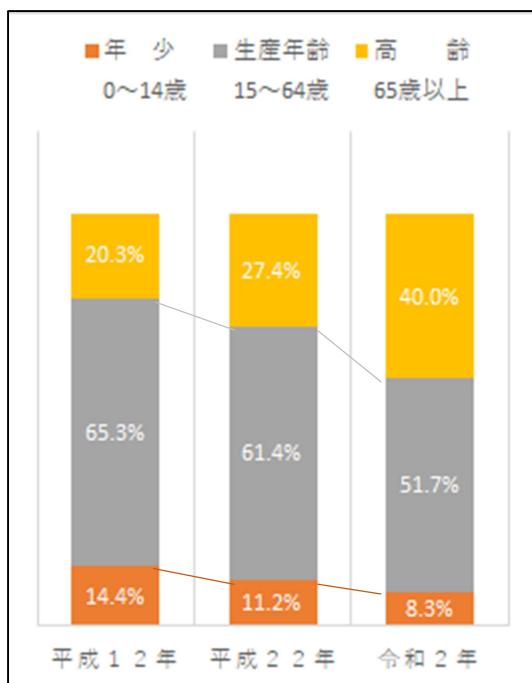
鹿嶋市年齢層別人口の推移



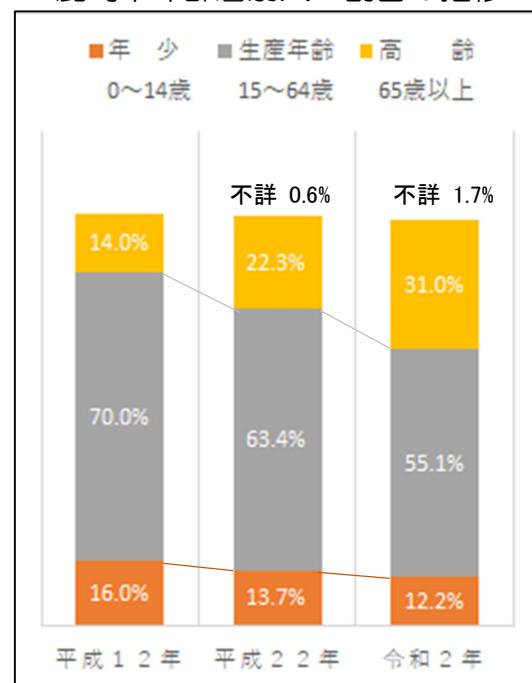
各年 10月 1日現在



豊津地区年齢層別人口割合の推移



鹿嶋市年齢層別人口割合の推移



各年 10 月 1 日現在

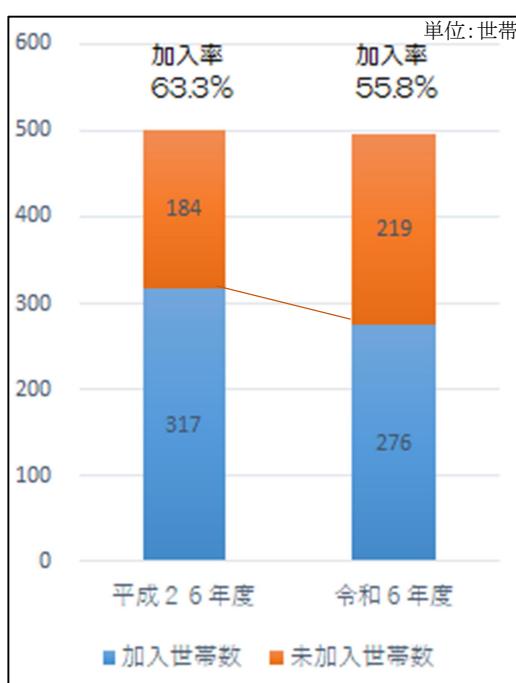
(3) 区加入率の推移

市からの配布物の配布対象世帯数を区加入世帯とし、世帯全体数は住民基本台帳の世帯数として区加入率を算出しました。

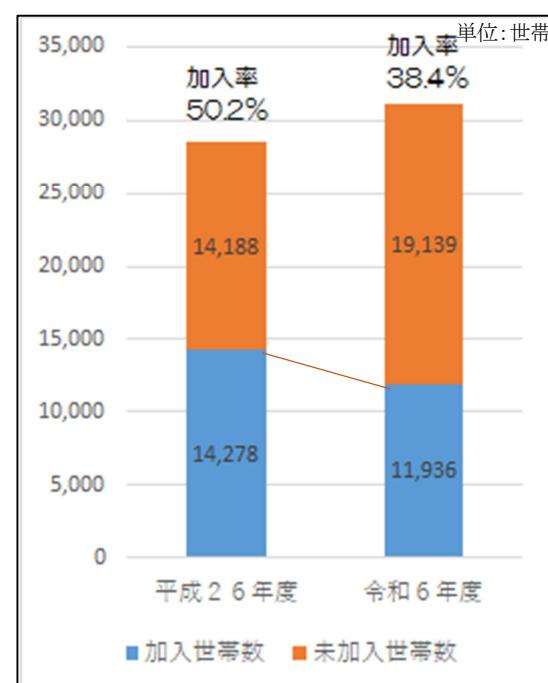
10 年前の平成 26 年と比べ豊津地区、鹿嶋市とも令和 6 年度の加入率は減少しています。

減少率は豊津地区の方が鹿嶋市全体よりも緩やかですが、加入世帯の中には配布物をもらうために名前だけ残している世帯も含まれており、実態としてはこの数字以上に減少していると思われます。

豊津地区区加入率



鹿嶋市区加入率



各年 4 月 1 日現在

2 豊津地区まちづくり委員会の10年

(1) まちづくり委員

まちづくり委員の数は70から80人ぐらいであり大きな変化はありません。委員になっている人も区長、副区長や小学校のPTA、子ども会育成会役員など充て職でなっている委員の入れ替えはあるものの、多くの方が委員を継続して務めています。

まちづくり委員会の役員も同様に多少の入れ替わりはあるものの、ほぼ同じ方がついています。

委員や役員の構成があまり変わらない事で委員が事業に精通していますが、一方でマンネリ化していることも否めません。また、就任当時は活動できた方も、高齢化で同様の活動を行うことが困難になってきています。

今後のまちづくり委員会事業継続、新展開のため、定期的に新しい委員が入ってくるようなシステム作りが必要です。

(2) 専門部名称変更

令和2年度に2つの専門部が名称変更をしました。

「スポーツ健康づくり専門部」が「健康づくり専門部」、「広報記録専門部」が「情報発信専門部」へ変更となりました。

「健康づくり専門部」は高齢化が進展する中、健康寿命の延伸に重点を置くことを明確にするため、健康を強調する名称としました。

「情報発信専門部」は、紙媒体の広報紙だけでなく、フェイスブック、ホームページといったインターネット配信が更に進展することを見据え、より幅を広げた「情報発信専門部」へ名称を変更しました。

(3) コロナ禍を乗り越えて

令和2年から世界的規模で新型コロナウィルス感染症が流行し、まちづくり事業は大きく影響を受けました。

新型コロナが飛沫感染することから、三密（密閉、密集、密接）を避けることが予防策として推奨され、人が集まって事業を行うまちづくり事業はかなり制限されました。

令和2年度はとよつまつりあい運動会とかるた大会が中止、とよつまつりも展示だけとなりました。令和3年度も運動会は中止でした。その他にもバスでの移動や、飲食を伴う事業は中止せざるを得ませんでした。

しかしまちづくり委員会では、そうした状況下でも事業を如何に実行していくかを模索しました。

令和3年度のとよつまつりでは、持ち帰りという制限付きではありましたが、カレー丼販売を試みました。運動会も令和4年度は会場への入場制限をし、競技種目も減らした午前中のみの開催ではありましたが、3年ぶりに復

活させました。

令和5年5月8日に新型コロナウィルス感染症が5類感染症に移行し、制限が緩やかになったことから、まちづくり事業はコロナ前に近い内容に戻ってきております。

しかし新型コロナウィルスが無くなつたわけではありませんので、引き続き感染症予防に注意を払いながらまちづくりの事業を展開していきます。

3 豊津公民館の10年

(1) 教育委員会へ所管替え

平成16年度まちづくり委員会が発足した当時、公民館へまちづくりセンターを併設、社会教育施設の性格を強調した活動を中心とするより、地域住民のやりたい活動を主体的に取り組んでもらうため、市長部局の市民協働部がまちづくりセンターを前面に出し市民協働のまちづくりを推進しました。

この後平成27年度に、協働のまちづくりが一定の成果を上げたとして、教育委員会部局が主管となり、公民館が前面に出るようになりました。

(2) 公民館に名称統一

平成16年度からどちらが前面に出るかの違いはありましたか、公民館とまちづくりセンターは併設していました。

しかし一つの施設に2つの名称がついているのが分かりにくく、実質その2つにあまり差異が無いことから、令和5年度にまちづくりセンターを廃止し、公民館に名称を統一しました。

4 委員会事業

(1) まちづくり事業計画（コミュニティプラン）

コミュニティプランとは、地域が主体となった地域コミュニティ活動の推進に向けた指針として、地域の将来像や課題、その解決に向けた具体的な活動などをまとめた計画です。作成する意義として、「地域の課題共有」「国・自治体で対応できないもので地域が協力してできること、地域独自でできることを振り分ける」「プラン作成過程におけるソーシャルキャピタル（地域の絆）の形成」などが挙げられます。

令和2年度に鹿嶋市全小学校区域ごとにコミュニティプランが作成されました。計画年度は令和3年度から5年度の3年間です。このコミュニティプランは内容が地区で行うべきものと行政が行うべきものが混在し、コロナ禍と重なったこともあり、計画した事業はあまり実施されませんでした。

計画期間が終了する令和5年度に見直しを行い、事業主体を明確にまちづくり委員会とし、豊津地区まちづくり事業計画（第2次豊津地区コミュニティ

ィプラン）を作成しました。

計画年度は令和6年度から10年度までの5年間とし、この計画に基づき豊津地区まちづくり委員会事業を計画、実施しています。

（2）主要事業

コミュニティプランを作成する前から、まちづくり委員会では様々な事業に取り組んできました。豊津地区まちづくり事業計画の中でもこれらは引き続き主要な事業として位置づけられています。

①とよつキッズ

豊津小学校の児童を対象に、学校の授業では学べないことを体験する場を提供し、将来地域を担っていく子どもたちを地域で育成しています。

最近では主に野菜、花栽培、ホタル見学会、三世代交流会を行っています。

②北浦一周サイクリング

北浦周辺に住む人や堤防に釣りなどで訪れる人に北浦浄化を訴え北浦周辺をサイクリングします。令和6年度で42回目となる伝統ある事業です。

③とよつふれあい運動会

平成18年度に、それまで別々に行っていいた住民体育祭と豊津小学校運動会を合同で行う「とよつふれあい運動会」が開催されました。

双方とも参加人数が減少し単独開催が難しくなっていることが背景としてありましたが、結果的に豊津の輪が広がる運動会となり、現在も引き続き行われています。

④とよつまつり

地域の賑わいづくりとして、毎年秋に公民館内及び敷地において祭りを開催しています。

模擬店や芸能発表、手芸、陶芸、書道等の作品展示を行っています。

⑤とよつかるた大会

平成16年度に親子の絆と郷土愛を深めることを目的に、まちづくり委員の手による「とよつかるた」が作られました。

このかるたを使った「とよつかるた大会」が平成17年度から行われ、毎年小学生を中心に、幼児からシニアまで年齢層別に分かれ競技を行っています。

「豊津のあゆみ2」電子フックの入手方法と読み方

電子フックにはとよつだよりやまちづくり委員名簿、区長、副区長、町代、常会長名簿など多くの資料を載せています。ぜひご一読ください。

電子フックは下記 QR コードを読み込み、ファイルをダウンロードしてください。



ファイル容量が大きいので Wi-Fi でのダウンロード推奨

ファイル容量 約 70MB

スマートフォンやタブレットのアプリで読むのがお勧めです。

スマートフォン、タブレットで読む場合

iphone (アイホーン) ipad (アイパッド) … フックで開いてください。

○フックは最初からインストールされています。

Android (アンドロイド) … 電子フックを読むためのアプリが必要です。

○インストールしていない方はアプリをインストールしてください。

(Google Play で epubリーダーと検索すると電子フックに対応したアプリがで
てきます。例: Google Play フックス)



←Google Play フックス

カメラの付いていないパソコンで読む場合

スマートフォン等に取り込んだデーターをパソコンに移行して読むか、市ホームページ豊津
公民館からこの概要版をダウンロードして下記 URL を使ってデーターを取り込んでください。

URL: http://drive.google.com/file/d/1VY8rSFTBzlvsuH7UPw6zk3qvR_nLyaMI/view

Windows … epub 対応のソフトウェアをインストールしてください。

Mac … フックで開いてください。

編 集 豊津のあゆみ2編集委員会

委 員 長	和 田 勉	(豊津地区まちづくり委員会委員長)
副委員長	海老澤 良 政	(ハラダ リョウジ 副委員長)
委 員	海老澤 博	(ハラダ ハク 地域環境専門部部長)
	大 川 悟	(大川 シゲル 健康づくり専門部部長)
	桐 生 進 一	(桐生 ヒロシ 情報発信専門部部長)
	根 本 弘 之	(根本 ヒロシ 情報発信専門部副部長)
	濱 田 善 久	(濱田 ヤスヒコ 情報発信専門部部員)
	黒 須 ゆ き	(黒須 ユキ 情報発信専門部部員)
事 務 局	沢 畑 好 一	(豊津公民館館長)
	藤 枝 英 夫	(豊津公民館職員)

令和7年3月 豊津地区まちづくり委員会発行